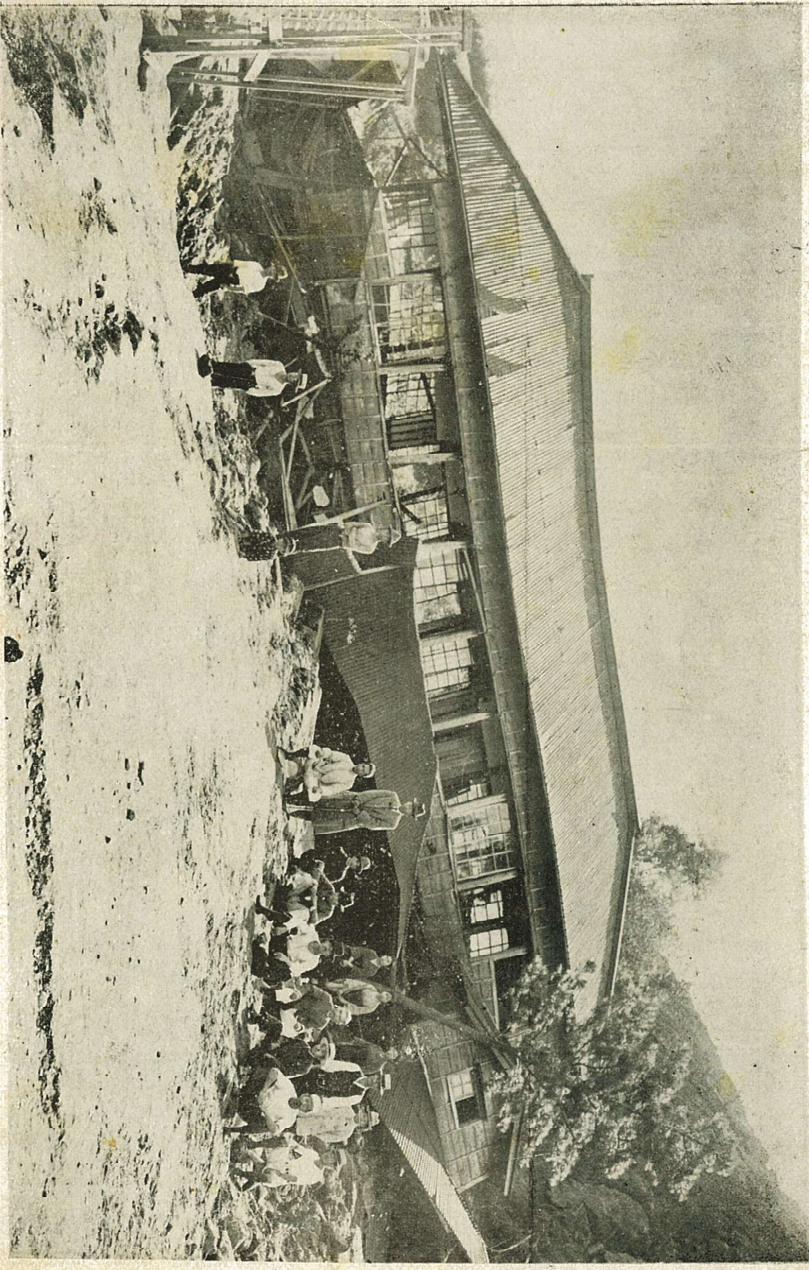


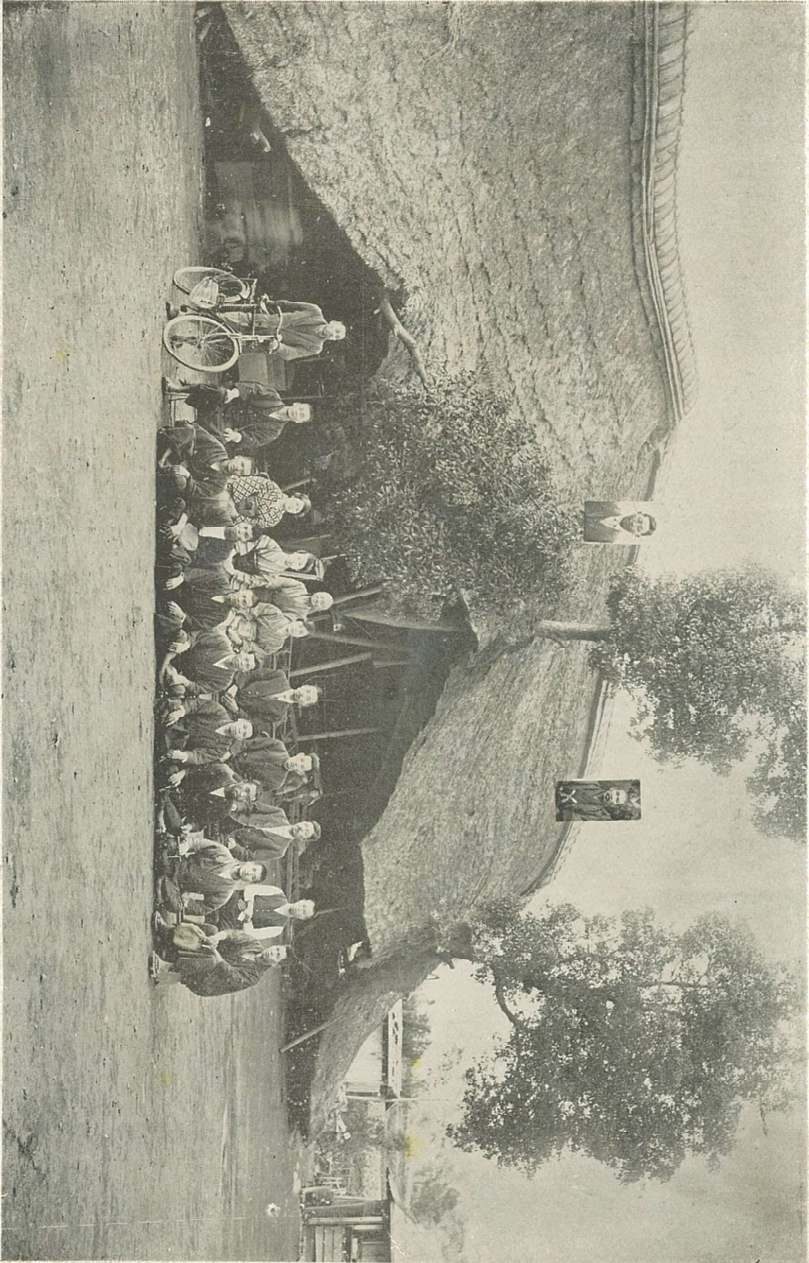
中井村震災紀念誌



中村尋常高等小學校大舎の破損



中村尋常高等小學校大舎の破損



井ノ口尋常小学校の被害

國民精神作興之詔書

朕惟フニ國家興隆ノ本ハ國民精神ノ剛健ニ在リ之ヲ涵養シ之ヲ振作シテ以テ國本ヲ固クセサルヘカラス是ヲ以テ先帝意ヲ教育ニ留メサセラレ國體ニ基キ淵源ニ遡リ皇祖皇宗ノ遺訓ヲ掲ケテ其大綱ヲ照示シタマヒ後又臣民ニ詔シテ忠實勤儉ヲ勸メ信義ノ訓ヲ申ネテ荒怠ノ誠ヲ垂レタマヘリ是皆道德ヲ尊重シテ國民精神ヲ涵養振作スル所以ノ洪謨ニ非サルナシ爾來趨向一定シテ效果大ニ著レ以テ國家ノ興隆ヲ致セリ朕即位以來夙夜兢兢トシテ常ニ紹述ヲ思ヒシニ俄ニ災變ニ遭ヒテ憂悚交々至レリ輓近學術益々開ケ人智日ニ進ム然レトモ浮華放縱ノ習漸ク萌シ輕佻詭激ノ風モ亦生ス今ニ及ヒテ時弊ヲ革メスムハ或ハ前緒ヲ失墜センコトヲ恐ル況ヤ今次ノ災禍甚タ大ニシテ文化ノ紹復國力ノ振興ハ皆國民ノ精神ニ待ツチャ是レ實ニ上下協戮振作更張ノ時ナリ振作更張ノ道ハ他ナシ先帝ノ聖訓ニ恪遵シテ其ノ實效ヲ舉クルニ在ルノミ宜ク教育

ノ淵源ヲ崇ヒテ智德ノ並進ヲ努メ綱紀ノ肅止シ風俗ヲ匡勵シ浮華放縱ヲ斥ケ
テ質素剛健ニ趨キ輕佻詭激ヲ矯メテ醇厚中心ニ歸シ人倫ヲ明ニシテ親和ヲ致
シ公德ヲ守リテ秩序ヲ保チ責任ヲ重シ節制ヲ尙ヒ忠孝義勇ノ美ヲ揚ケ博愛共
存ノ誼ヲ篤クシ入りテハ恭儉勤敏業ニ服シ產ヲ治メ出テテハ一己ノ利害ニ偏
セスシテ力ヲ公益世務ニ竭シ以テ國家ノ興隆ト民族ノ安寧社會ノ福祉トヲ圖
ルヘシ朕ハ臣民ノ協翼ニ賴リテ彌々國本ヲ固クシ以テ大業ヲ恢弘セムコトヲ
冀フ爾臣民其レ之ヲ勉メヨ

御名御璽

攝政名

大正十二年十一月十日

序

大正十二年九月一日、突如として起つた大震災は、全く人類史上、未曾有の大慘劇であつた。尊き生命を失ふ十幾萬、國富の灰燼に歸せしもの正に百億、山紫水明の郷、共存共榮平和を以て鳴る中井村も、一轉瞬の間に、其の美しい、平和な姿を没して、慘ましい殘骸を曠野に横へた。人生、驚心骸魄すべき事は決して尠くはないけれども、激變、此の如きは蓋し容易に遭逢すべくもない。

然し、吾等は天の人生に與へた大教訓の深甚さを味ひ、微妙なる天意のある處を覺り、苦しき此の大試練に打勝て、雄々しくも復興の實を學げ、更に一步を進めて、より大なる、より充實したる中井村の建設に向つた。

是に於て、吾等の歩みし跡を、天下後世に傳へ、一は以て鑑戒に資し、二は以て深思熟慮、將來の大計を樹立するの資に供せんと欲し松本愛敬君に囑

し此の一書を編成するに至つた。今、本書成るに及び、感慨無量なるものあり、唯一言序して、本書の公刊由來を明にする所以である。

二

中井村役場

例言

一、本書は史上未曾有の大震災を永遠に記念すると共に、此の機會に、地震に關する一般科學的概念を興ふるを目的として、編纂したものである。

二、編纂に當ては、務めて正確な統計を基礎として、之れに各方面より得た話材を織り込んで、遺漏なきを期したが、編者の不識不才の爲めと、材料を手に入る時間の比較的遅かつた爲め、誤謬脱漏なきを保し難い。大方識者の御教示を得ば幸甚之れに過ぐるものはない。

三、又本書編纂に對し、御多用中にも不拘貴重なる材料、有益な談話、指教を賜つた左記の諸氏に謹んで感謝致します。

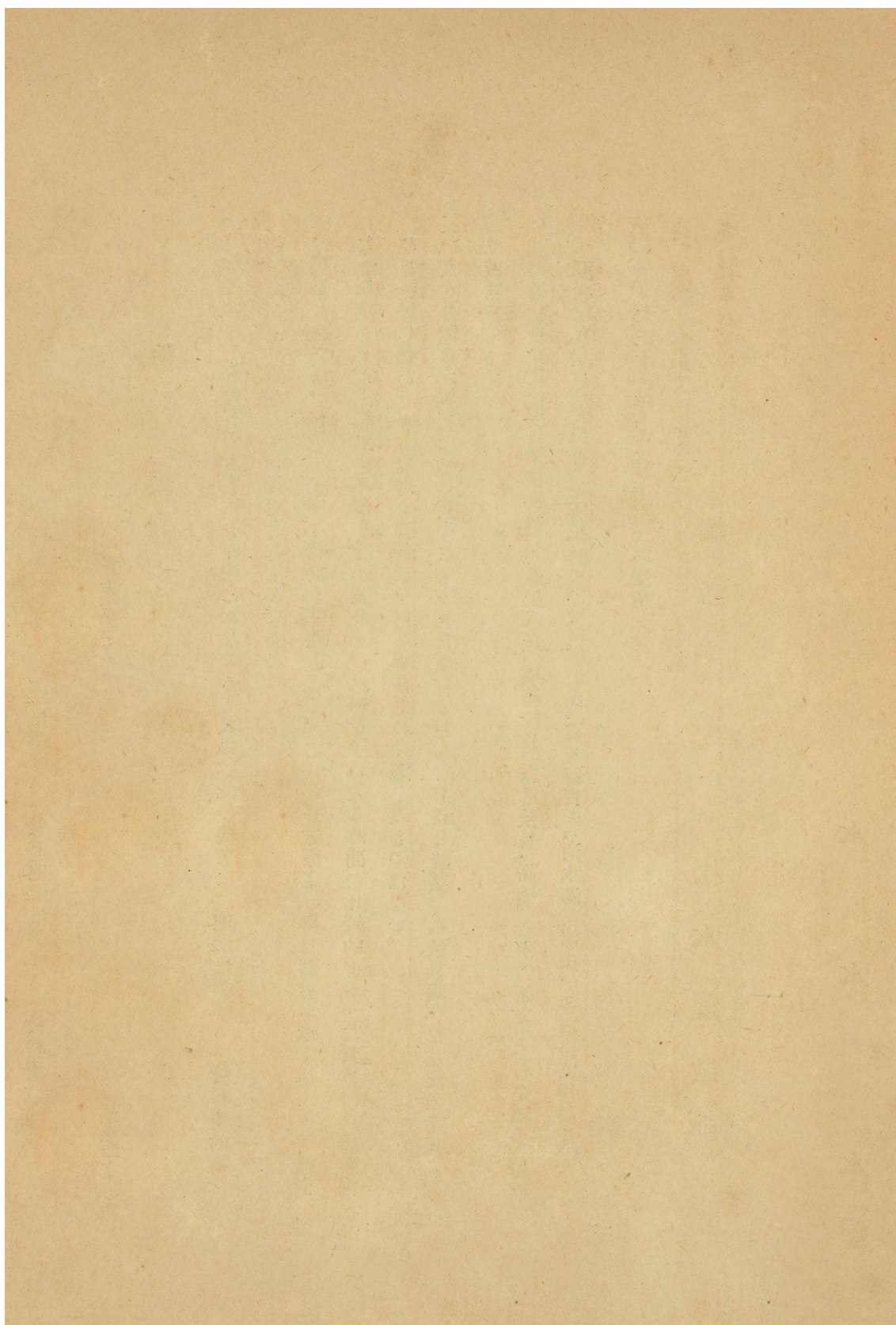
高橋助役、中津川農業技術員、須藤辰八氏、磯崎校長、露木校長、高橋、岩本の諸先生、石黒國手、相原舜次郎氏、古谷野巡查、城所源助氏、柿沼信道氏、石井留吉氏、清水滿三郎氏、各議員區長諸氏

大正十三年十二月十四日の深夜

編者

マスタ
オブ
アーツ

松本愛敬識



八、地震の前兆……………二九

九、地震と津波との避難に關する注意……………三一

震 災 編

一、中井村各字の被害概況……………三四

イ、比奈窪 ロ、松本 ハ、雜色 ニ、鴨澤 ホ、古怒田 ヘ、半

分形 ト、田中 チ、遠藤 リ、北田 ス、久所 ル、藤澤

オ、岩倉 ワ、境 カ、境別所 ヨ、井ノ口

二、教育機關の被害……………四八

イ、中村尋常高等小學校 ロ、井ノ口尋常小學校 ハ、境分教場 ニ、中村

實業補習學校

三、公營物の被害……………五二

イ、役場 ロ、隔離病院 ハ、橋梁 ニ、道路 ホ、用水路 ヘ、

堤防

四、震災と産業……………五四

イ、農作物栽培と施肥關係 ロ、震災と副收入の關係

一、養蠶	二、其他の副業	
ハ、物價と農産物の關係		
一、一般物價	二、農産物價の變動	
二、耕地及作物の被害	三、葉煙草の影響	
五、震災と商工業		六六〇
六、震災と金融		六一
七、震災と交通運輸と水道		六五
イ、交通運輸	ロ、水道	
八、震災と疾病		六七
九、震災と名所舊跡		七〇
十、社寺と震災		七一
イ、神社	ロ、佛閣	
十一、流言蜚語紛々		七五
十二、震災美談と哀話		七六
イ、義人に謝す	ロ、職務は辛いもの	
	ハ、身を賭して學校を救つた勇敢な二青	

年と三職員

ニ、善人の及ばぬ『悪黨』の美舉

ホ、此父にして此の子

四

救護編

一、皇室の御救恤……………八五

イ、御内帑金の下賜……………
ロ、皇后陛下の御仁慈

二、政府の施設……………八七

三、恩賜金……………九四

四、謝するに辭なき外國の同情……………九六

五、村の施設と活動……………一〇五

イ、概説……………
ロ、中井村復興協議會……………
ハ、役場の活動……………
ニ、議員と區長……………

六、村農會の活動……………一〇八

七、在郷軍人會の活動……………一一一

八、青年團の活動……………一一二

九、處女會の活動……………一一二

十、報徳社の活動……………一一四

十一、宗教團體の活動……………一一四

十二、警察の活動……………一一五

十三、青年の勞力奉仕……………一一六

復 興 編

一、はしがき……………一一九

二、行政の復興と村の綱領……………一二〇

三、教育機關の復興……………一二一

四、産業の復興……………一二三

五、復興後の金融……………一二四

